

Interim Financial Report

2009年3月期中間報告書
(2008年4月1日～2008年9月30日)

株式会社LTTバイオフーマ
証券コード 84566

売上高

621 百万円

営業利益

△ 444 百万円

経常利益

△ 223 百万円

四半期純利益

△ 13 百万円

純資産

1,263 百万円

注記事項

- ※本報告書は10月30日発表の第2四半期決算短信の数値、文章をもとに作成しております。
- ※本資料に記載した予想数値は、10月30日の第2四半期決算発表時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により以下記載のもの異なる場合があります。
- ※当連結会計年度より「四半期連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しています。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しています。

株主の皆様へ



株主の皆様には、格別のご配慮とご支援を賜り誠にありがとうございます。本年5月に研究開発の中心であった水島裕が急逝し、多大なるご心配をお掛けしていると存じます。この試練を乗り越えるために私が取締役会長に就任し、研究開発の先頭に立つことにいたしました。基礎研究については熊本大学に研究資源を集中させ研究開発の迅速化を図っております。また臨床開発においてはPC-SODの第二相臨床試験結果によりその有効性が確認されるとともに、熊本大学での研究により、PC-SODの新しい投与方法も発見されるなど、この薬の価値を大幅に向上させることが出来ました。他の研究開発も順調に進んでおります。

今後とも株主の皆様のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社LTTバイオフーマ
取締役会長 水島 徹 (写真:右)

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

2008年度は大変な状況のもとスタートを切ることとなりましたが、新経営体制のもと、本業である研究開発に経営資源を集中させ、この難局を乗り越えるべく全社一丸となって進んでまいりました。創薬事業ならびにEIP事業は順調に推移し、本年10月には当社100%出資の子会社株式会社マンパーツ販売の設立に至っております。今後も企業価値向上に向け実直に取り組んでまいりますので、一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。

株式会社LTTバイオフーマ
代表取締役社長 鈴木 巖 (写真:左)

第2四半期連結累計期間について

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、サブプライムローン問題に端を発した国際金融の混乱や原油価格をはじめとした原材料価格の高騰などの影響により、景気の先行きに不透明感が増しております。

一方、わが国の医薬品業界は国内市場の頭打ち、外資系企業の進出、海外市場の比重アップなどを背景に企業のM&Aが進んでおり、研究開発競争が激化しております。当社の事業領域であるバイオテクノロジー分野においても、世界に通用する新薬開発が重要課題となっております。

このような状況の中、当社は当第2四半期において前四半期に引き続き医薬品の上市に向けて、臨床結果を検討する治験調整委員会を開催するなどして研究開発活動を推進してまいりました。また、EIP技術を中心とした表面改質化技術の事業化につきましては、平成20年10月1日に当社100%出資子会社（株式会社マシンプーツ販売）を設立し、EIP製品に関し販売と製造とを分離することで効率的な経営を行い、更なる事業拡大を目指すことといたしました。

一方、100%子会社である株式会社ソーレの調剤薬局事業は堅調に推移いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は621,931千円（前年同四半期比63.0%減）、営業損失は444,642千円、経常損失は223,637千円、四半期純損失13,731千円（前年同四半期比113,751千円減）となりました。

第2四半期累計の業績と通期見込み

（単位：千円）

	第2四半期 累計実績	通期見込み
売上高	621,931	942,000
営業損失	444,642	665,000
経常損失	223,637	460,000
当期純利益又は四半期純損失	△ 13,731	23,000
一株あたり当期純利益又は四半期純損失	△ 104.13円	174.41円

研究開発活動

<創薬事業>

1. PC-SOD

当社が開発を進めておりますPC-SODについて、当第2四半期において第1四半期にまとまった研究成績をもとに外部より先生方にお集まりいただき、特発性間質性肺炎および潰瘍性大腸炎の治験調整委員会を開催して研究結果について議論を行い、製剤の有効性と安全性を確認しました。各治験調整委員会の結果、用量設定試験における両疾患での最適量が確認されました。また、当社取締役会長水島徹より、現在の投与方法に加えてさらに患者様に負担の少ない間歇静脈内投与、経口投与および注腸投与等の方法について動物実験を行い、効果がみられたという結果報告がされ、今後の第Ⅲ層臨床試験に向けての開発を継続しております。さらにライセンス活動につきましては、交渉初期段階として数社と秘密保持契約を締結し、共同開発に向けて活動を開始しております。

中国事業では将来のPC-SOD製剤製造にあたり、当社製剤開発部長が現地に赴き直接技術指導を行い、セルバンク（製造に使用する遺伝子組換え大腸菌を培養し、数十本に分けて保管したもの）の確立と培養の準備段階が整いました。

2. AS-013

第二世代のPGE1製剤として既に第Ⅱ相試験が終了しており、第一世代の製剤よりも持続性・安定性に優れ、医薬品として進化した製剤として、中国ならびに韓国において秘密保持契約を締結し共同開発の交渉を継続中であります。

3. Zn-G-CSF

第2四半期において非臨床試験の準備および開発に使用する原薬の入手を行い、ライセンス交渉が可能な段階まで進展しました。この製剤はこれまで徐放化G-CSFという呼称でしたが新薬候補化合物をより明確にするためZn-G-CSF徐放製剤という名称を使うこととし、2009年度下期における臨床試験実施を目標に準備を進めております。

EIP事業

EIP技術とは、金属表面に異種金属粉末を均質に塗布し、その上から電子ビームを照射することで合金層を形成する技術です。当社は株式会社マシンパーツ（徳島県）との共同研究により、EIP技術により形成された合金が非常に優れた多くの特性（低摩擦性、耐久性、耐腐食性、高硬度化など）を併せ持つことを確認しております。

本年7月には、医療機器等に関するアジア最大の見本市（インターフェックスジャパン）にEIP技術を利用した製剤打錠用杵を株式会社マシンパーツと共同出展し、製薬企業を中心に多くの企業に会場いただくとともにEIP技術の説明をさせていただきました。また、本年10月には当社100%出資の子会社株式会社マシンパーツ販売を設立し、EIP製品の販売強化体制を整えました。

現在、60社を超える製薬企業等の見込顧客企業からレンタル杵（無償試用品）の発注を頂くとともに、顧客企業側での性能テスト等が終了し、テスト結果が良好であったものから順次正式受注を頂いております。また、EIP製剤打錠用杵以外の用途への応用として、人工関節、軸受、ギア、免震技術など様々な分野での性能試験を促進させ、大手企業との共同研究に向けた準備を進めております。



財務データ（連結）

〔連結貸借対照表（要旨）〕

（単位：千円）

科 目	第2四半期 連結会計期間末 (2008年9月30日)
資産の部	
流動資産	1,034,082
固定資産	772,860
資産合計	1,806,942
負債の部	
流動負債	527,821
固定負債	15,881
負債合計	543,702
純資産の部	
株主資本	1,263,240
純資産合計	1,263,240
負債純資産合計	1,806,942

〔連結損益計算書（要旨）〕

（単位：千円）

科 目	第2四半期 連結累計期間 (2008年4月1日から 2008年9月30日まで)
売上高	621,931
売上原価	453,705
売上総利益	168,225
研究開発費	162,617
その他の販売費及び一般管理費	450,250
営業損失	444,642
営業外収益	221,005
経常損失	223,637
特別利益	104,555
税金等調整前四半期純損失	119,082
法人税等	△ 105,351
四半期純損失	13,731

〔連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）〕

（単位：千円）

科 目	第2四半期 連結累計期間 (2008年4月1日から 2008年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 154,920
投資活動によるキャッシュ・フロー	105,000
現金及び現金同等物の増減額	△ 49,920
現金及び現金同等物の期首残高	411,360
現金及び現金同等物の四半期末残高	361,440

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会

3月31日

期末配当金受領株主確定日

3月31日

(中間配当金の支払を行うときは9月30日)

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒137-8081

東京都江東区東砂七丁目10番11号

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

[お問合せ]

0120-232-711 (通話料無料)

[各種手続用紙のご請求]

東京 0120-244-479

大阪 0120-684-479

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
野村證券株式会社 全国本支店

公告の方法 当社の公告方法は、電子公告とします。
公告掲載アドレスは<http://www.ltt.co.jp/>
ただし、事故その他やむを得ない事由によっ
て、電子公告による公告をすることができな
いときは、日本経済新聞に掲載して行います。

当社のホームページでも詳しい情報を同時に開
示しております。ぜひ併せてご覧ください。

ホームページアドレス <http://www.ltt.co.jp/>

トップページ



IRページ



株式会社LTTバイオフィーマ

〒105-6201 東京都港区愛宕二丁目5番1号
愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階
TEL 03-5733-7391 FAX 03-5733-7397

証券コード：4566

